

日本・フランス・ドイツ研究交流

家族農業経営研究ワークショップー農業経営・家族農業の比較分析

主催： 京都大学大学院農学研究科・生物資源経済学専攻

京都大学スーパーグローバルコース人文社会科学系ユニット

Agropolis International

Goettingen University

共催： 「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論 寄附講座

科学研究費補助金基盤（A）「食品安全のためのリスクコミュニケーション
モデルの開発とプロフェッションの要件」

1.趣旨

世界中で家族農業経営の姿が大きく多様化しており、その実態をとらえるための新たな分析概念・枠組みが求められている。

本ワークショップの課題はまず、農業経営／家族農業の現状（いかなる変化を遂げたのか）と変化の方向性、それらの独自性・共通性について、フランス、日本、中国を事例とし、統計に基づいて把握することである。

このように変化・多様化する世界の家族農業を比較分析し、上記の実態把握に加え、変化をもたらす要因、存続のための条件・対策、多様な役割・経営目標や、それらの独自性・共通性を解明するための概念・枠組みについて提起することが、もう1つの課題になる。

3回目の開催となるこの「家族農業経営研究ワークショップ」は、京都大学と学術交流協定を結んでいる、フランスの Agropolis International とドイツの Goettingen University との学術交流を深めるためのものであり、前者からフランスとアフリカの家族農業の研究者、後者からドイツと中国の家族農業の研究者を招聘して開催される。

その前日に、同じく3つの研究機関の大学院生が、家族農業／農業経営とそれに関連する課題について、それぞれの研究内容を披露し合う「農・食・環境経済若手ワークショップ」が開催される。

2.ワークショップ日程

3月15日（水）「第3回農・食・環境経済若手ワークショップ」

3月16日（木）「家族農業経営研究ワークショップ」

3.家族農業経営研究ワークショップー農業経営・家族農業の比較分析

（一般公開 使用言語：英語）

日時：3月16日（木）13時～17時

場所：京都大学・農学部総合館「大会議室」（C102）

報告：20分 総合討論：70分

1) 統計に基づく農業・家族農業の現状と変化の把握

報告1 企業形態、農業労働力保有状態からみた現代日本の農業経営構造分析

—2010年農業センサスをもとに— (新山陽子/京都大学・関根佳恵/愛知学院大学)

報告2 構造変化分析のための労働力ベース・アプローチ:

2000～10年のフランスにおける農業経営の発展 (Pierre-Marie Bosc/CIRAD)

報告3 中国における農業経営の構造と変化 (Xiaohua Yu/Goettingen University)

2) 農業経営・家族農業の変化の相違点・共通点を明示するための比較分析の枠組みの提案

報告1 ザンビアにおける農家のレジリアンス (梅津千恵子/京都大学)

報告2 サブサハラ・アフリカにおける人口動態に着目した土地利用の見通し

(Jean-Michel Sourisseau/CIRAD)

報告3 家族農業の行動システムの分析枠組み (Pierre Gasselin/INRA)

報告4 ドイツの農業者の放牧決定 (Ulf Roemer / Goettingen University)

3) 総合討論

4.第3回農・食・環境経済若手ワークショップ (一般公開 使用言語: 英語)

日時: 3月15日(水) 13時～18時

場所: 京都大学・農学部総合館「大会議室」(C102)

報告: 20分 質疑応答: 10分 全体講評: 30分

報告

1. Haruka Ueda, A Comparison of Promotion Strategies for Taste Education in Japan, France, and Italy: Suggestions for Japan's Shokuiku (Food Education)

2. Hadrien Di Roberto, Characteristics of land markets in small family farming context: A case study in central highlands Madagascar

3. Risako Tada, The economic performance of paddy field farming in Japan and the impact of direct payments on technical efficiency

4. Birgit Gassler, Maintaining extensive dairy production: Factors driving the pasture-raised milk market in Germany

5. Nahoko Kihara, Consideration on Establishment of Management and Sales Strategy of New Entrant Farmers

6. Dieter Koemle, The impact of Natura 2000 designation on agricultural land prices

7. Kohei Hayashida, Market Power and Price Transmission in Japanese Drinking Milk:
New Empirical Industrial Organizational Study
8. Damien DEVILLE, Urban agriculture and precarity grow for a better food safety

全体講評

* 助言者 Pierre Gasselin/INRA
Jean-Michel Sourisseau, Pierre-Marie Bosc/CIRAD
Xiaohua YU, Ulf Roemer/Goettingen Univ.
Ulf Roemer (Goettingen University)